

【播種作業と雑草対策】

収量・品質確保に向け、
適期の播種と雑草対策をしましょう。

★特に重要なポイント★

- ・ **適期の範囲外で播種を行うと青立ちや成熟遅延が発生しやすくなります（里のほほえみの播種適期は5/30～6/10）。**
適期に播種を行うことで、収量・品質を確保するとともに青立ちや成熟遅延を防止しましょう。
- ・ **帰化アサガオ類の防除には複数回の作業が必要です。**本技術情報を参考に防除作業体系を組み立てましょう。

1 播種作業について

- 紫斑病やタネバエ、ネキリムシ類、アブラムシ類による被害を防ぐため殺菌殺虫剤の種子塗抹を行う。
- **早播きは生育過剰を、遅播きは生育ステージの後ずれを引き起こしやすく、それぞれ青立ちや成熟遅延の要因となる。表1を参考に適期に播種を行う。**
- 播種深度は3～4cmとする。土壌水分が多い場合はやや浅め（2cm程度）、土壌が乾燥気味の場合はやや深め（5cm程度）とし、十分鎮圧する。
- 欠株は減収や雑草繁茂の要因となるため、播種機の目詰まりには十分に注意する。播種作業は目詰まりを確認するサポーターとともに行うことが望ましい。連続欠株が生じた場合は初生葉展開期までに追播や補植を行う。

表1 播種のめやす

品種	播種適期	目標苗立数 (本/m ²)	播種密度のめやす		10a当たり 種子量めやす
			うね幅	株間 (2粒播き)	
里のほほえみ	5/30～ 6/10	13	75cm	16cm	6kg
エンレイ	5/20～ 6/10	9～10	75cm	21～23cm	3.5～4kg

2 雑草対策について

① 播種直後

- ・ 播種後なるべく早い時期に土壌が湿っている状態（晴天時は日中を避け、夕方に散布するなど）で土壌処理剤を散布する。
- ・ 砂土や土壌表面に水たまりができていたりなど極端に湿っている場合は薬害が発生する可能性があるため使用を控える。

② 生育期

- ・ 生育期の雑草防除は中耕・培土と生育期処理除草剤により行う。生育期処理除草剤を使用する場合は、ほ場に発生する草種に応じた除草剤を選択し、遅れずに散布することが重要である。

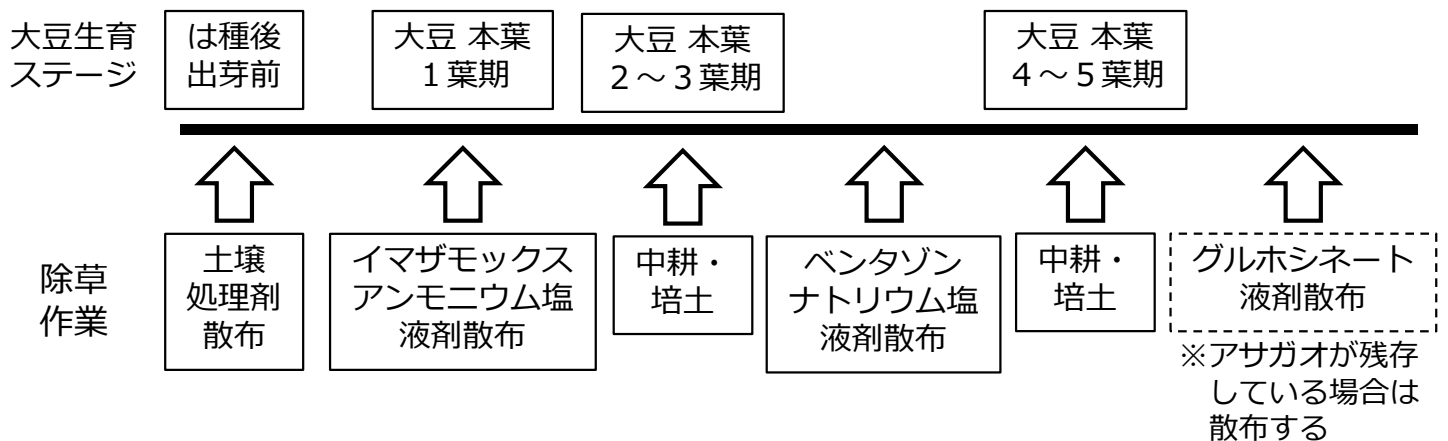
③ 帰化アサガオ類の防除について

- ・ 帰化アサガオ類は発生期間が一般的な雑草よりも長い。
- ・ 成長が進み、「つる」が発生してくる頃には除草剤や中耕・培土の効果が不十分になる（出芽後2～4週間で「つる」が発生する）。



長期間に渡り発生が続く帰化アサガオ類は複数回の防除作業が必要。「つる」が発生する前に防除作業を行うことが重要。

- ・ アサガオの多発ほ場では以下の防除体系列を参考に作業を行う。



- ★ 効果を確保するためには「つる」が発生する前に除草剤を散布しなければならないため、**アサガオの発生状況を確認して除草剤散布を遅れずに行うことが重要。**

帰化アサガオ類の防除で不明な点があれば普及指導センターまでご相談ください。

この資料は令和8年4月22日現在の登録情報に基づいて作成しました。
農薬を使用する際は必ず最新の登録内容、使用方法・注意事項等を確認してください。